

国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

監事 松島 美一

ブリテン 伊藤 誠彦

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

担当主事 青木 英幸

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立 90 周年の恵みの中、YMCA と共に未来を開く」

“Blessing of club 90th anniversary, open the future with YMCA”

<今月の聖句>

田口 努

「光は暗闇の中で輝いている」

(ヨハネによる福音書 1 章 5 節)

今月のひとこと 「最後の葉」

古賀 健一郎

ワシントン・スクエアの西側にある、芸術家が集まる古びたアパートに暮らす若い画家のジョンジーとスー。『医者(肺炎)と呼ぶ目に見えない冷酷な侵入者がこの芸術家村を歩き回って、氷のような手であちこちの人間に触った』……。米短編作家、オー・ヘンリーの代表作『最後の葉』の一節である。ジョンジーも重い肺炎にかかり、病窓から見える壁を這う蔦の葉が、10枚、9、8…と散り、“最後の葉”が落ちたら自分も死ぬと諦めていた。

彼女たちの階下に住む老画家、ベアマンは、口ではいつか傑作を描いてみせると豪語しつつも久しく絵筆を握らず、酒を飲んで他人を嘲笑う日々を過ごしていた。ジョンジーが「葉が落ちたら死ぬ」と思い込んでいることを伝え聞いたベアマンは「馬鹿げている」と罵った。一晚中激しい風雨が吹き荒れ、朝には蔦の葉は最後の一枚になっていた。その次の夜にも激しい風雨が吹きつけるが、しかし翌朝になっても最

後の一枚となった葉が壁にとどまっているのを見て、ジョンジーは生きる気力を取り戻す。最後に残った葉はあの老画家が嵐の中、煉瓦の壁に絵筆で精緻に描いたものだった。

ジョンジーは奇跡的に全快を果たすが、冷たい風雨に打たれつつ夜を徹して壁に葉を描いた老画家は、数日後に肺炎で亡くなる。

物語の締めくくり。スーがジョンジーにこう話しかけた。「あの“最後の葉”、風が吹いているのに、ひらひらもしなければ動きもしないのを不思議だと思わなかった？ねえ、ジョンジー、あれがベアマンさん(老画家)の傑作なのよ！最後の葉が散った夜、あの人はあれをあそこに描いたのよ」……。

コロナ禍で今も、医療従事者をはじめ“自身の生活を犠牲にして”にウイルスという“冷酷な侵入者”と向き合う人たちがおられる。本当に頭が下がる思いだ。著者のオー・ヘンリー自身、波乱に満ちた彼の生涯を生きながら、彼の作品の視点にあるのは“社会の弱者に対する優しさ”であった。

目に見えない新型コロナウィルスに翻弄される日々にあつて、横浜クラブは、昨年12月開催予定であった『クラブ創立90周年記念式』を中止とした。しかし、この一年改めて“ク

田口ワイズ 今月の聖句について

コロナ禍という先の見えない中にあり、ある意味で、分かれ道に立ち、新しい選択をしなければならない。

ただ、わたしたち YMCA は、主から与えられた、ミッションという一つの光を持つ。その灯心を消すことなく、世の光として高く掲げポジティブネットある豊かな社会創造していきたいと願っている。このような思いでこの聖句を選びました。

ちなみに日本 YMCA 中期計画(案)(2021年から2023年)の主題聖句でもあります。

<2021年5月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 8名 メネット 1名 コメント 0名 ビジター 7名 ゲスト 1名 合計 17名	83% (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<6月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
01	火	19:00	第90回Y-Y's協議会	Zoom
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
11	金	19:00	第4回区役員会	Zoom
12	土	13:30	東日本区大会	Zoom
19	土	15:00	第4回評議会	Zoom
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

クラブの90年の歴史”を振り返ってみると、関東大震災、第二次世界大戦、多くの自然災害・・・と多くの困難を乗り越えてこられた先達の方々のお働き、“弱き者、小さき者”の為に地域社会に貢献されたお姿が浮かび上がってきた。

ごく身近な方としては、昨年11月天に召された金子功さんがおられる。ワイズでの活躍に加え、1950年横浜YMCA少年部に入会されて以来『YMCA愛・ワイズ愛』に燃え続けられ、病魔と闘いながら、亡くなられる数日前までもご助言を下された。先日の5月横浜YMCA総会において、横浜YMCAに永年に亘って多大な貢献があった方に贈られる『奉仕の書』を受賞された。亡くなられた方の受賞は異例であり、横浜YMCAからの深い感謝と共に、故人の名を『奉仕の書』に刻みたいとの強い想いがあったとお聞きし、横浜クラブとしても大きな喜びであった。

金子さんをはじめ、先達の『“他者の為に生きる”とのワイズの精神をもって、地域社会に希望の光を灯し続ける』とのクラブの伝統をしっかりと受け継いでいきたい。

「5月第一例会報告」

古賀 健一郎

日時 : 5月13日(木) 18:30~20:15

場所 : Zoom 例会

出席者 : 青木、秋元(卓話者)、伊藤メン・メネ、大高、古賀、齋藤、古田、松島

ゲスト : 後藤美紀(横浜ACT運営委員、横浜YMCA会員事業委員)

ビジター : 板崎淑子(鎌倉)、日下部美幸(厚木)、鈴木茂(横浜つづき)、佐藤節子(厚木)、為我井輝忠(東京町田スマイリング)、千葉裕子(鎌倉)、辻剛(横浜つづき)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面式例会は

行わず、『Zoom 例会』とした。例会は、古田ワイズの司会により定刻に開始。会長の開会点鐘、挨拶。ワイズソング、ワイズの信条の唱和。今月の聖句朗読と解説は、押川ワイズに代わり古賀ワイズが代読。古賀会長によるゲスト・ビジター紹介。

今回の5月例会の卓話者は、本年4月より横浜クラブに入会された秋元美晴ワイズ。『一日本語教育者から見た「聖書」の日本語』と題して、『聖書 聖書協会共同訳』(日本聖書協会2018年刊行)の刊行作業に関わられた時の話題を中心に、また“ノンクリスチャンの立場から”と断りを入れてお話された。

秋元ワイズは、日本の国語学者、日本語教育研究者として、キリスト教主義学校(恵泉女学園大学)で教鞭をとられている背景もあって、“外部モニター(聖書学・神学の専門家、教職者、日本語の専門家、一般信徒、学校教師で構成)”の一人として、ノンクリスチャンではあるが、日本語の専門家として、上記の聖書のお働きに加わられた。

新しく刊行される聖書の目標である『礼拝での朗読にふさわしい、格調高く美しい日本語を目指す』に力点が置かれた。

不自然な日本語はないか?いろいろな聖書をチェックし、自分でも何度も読み返した。一人の担当として、聖書全体の4分の1程度(470ページ)を2年半かけてチェック作業を行い、2018年の出版となった。

卓話の終わりの司会者の「今回のお話は、信仰者であるなしに関わらず、聖書の言葉を深く、ひとつひとつの使い方を関心をもって聴くことができ、大変ありがたいお話でした」との言葉に象徴されるように、多くの参加者と共に、貴重で豊かな交わりの例会となり、深い感謝であった。

卓話の後はビジネス。6月・7月例会の予定&クラブ総会準備を確認した。今月のハッピー・バースデーは、齋藤ワイズを拍手でお祝い。会長の点鐘で閉会し、全員でスクリーンショットで記念撮影した。



(補足説明)

『一日本語教育者から見た「聖書」の日本語』と題して、(秋元美晴ワイズの卓話から)

- (1) 外部モニターの秋元ワイズのご意見と編集者の総合的判断で幾つか見解の相違があった興味深い例を下記に補足説明したい。(2018年の刊行の)新しい聖書なので、現代の表現に合わせた方が良いと秋元ワイズは考えられた。

①『報い』について（語の意味の問題から…）

『よく気をつけて、私たちが働いて得たものを失うことなく、豊かな報いを受けるようにしなさい』（ヨハネの手紙二：8）

★秋元改訂案：豊かな報酬が受けられるように（理由・根拠）：「報い」は「ある行為の結果として身に跳ね返ってくることから。善悪いづれについても言うが、現在では、悪い行為をした場合に言うことが多い」『現代国語例解辞典』（3版）とあるので、「報い」を「報酬」にした。⇒結論は『聖書 聖書協会共同訳』変更なしとなった。

②『主に信頼する』（助詞の問題から…）

『心を尽くして主に信頼し、自分の分別に頼るな』（箴言3：5）

★秋元改訂案：主を信頼する（コメント）：「信頼する」は「を」をとるのだと思う。

⇒結論は『聖書 聖書協会共同訳』変更なし。

『信頼する』について⇒・『広辞苑 第四版』[信頼] 信じたよること。「同僚を信頼する」

・夏目漱石『二百十日』（1906）「無論なら安心して、僕に信頼したらよからう…」

・芥川龍之介『河童』（1927）「…紙に書いた文字の方を信頼しますか…」

・太宰治『朝』（1947）「…よけいに私を信頼しているように、どうも、そうらしく私には思われて来た…」

③『私に聞け』（非日本語表現の問題から…）

『ヤコブよ、私に聞け。私が呼び出したイスラエルよ』（イザヤ書48：12）

★秋元改訂案：私の言うことを聞け。（理由・根拠）「私に聞け」ですと、何かを私に尋ねるようになっていく感じがする。ここではそうではないと思うので変えた。⇒結論として、『聖書 聖書協会共同訳』は『ヤコブよ、聞け。私が呼び出したイスラエルよ』に変更された。

④『おられる／～ておられる・あられる』（敬語の問題から…）

『天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである』（マタイ5：16）

★秋元改訂案：天にいらっしゃるあなたがたの父（理由・根拠）：「おられる」は二重敬語。謙譲の動詞「おる」+尊敬の助動詞「れる」をつけて尊敬語とするのはおかしいと思う。⇒結論として『聖書 聖書協会共同訳』変更なし

（2）例会参加者からの感想

- ・「日本語の学者の先生はこういうことが気になるのかと感銘をうけた」
- ・「先生のご指摘は理解できるが、昔から長く聖書を読んでいる私は、昔の文語訳がすぐ口に出てくる。今の聖書よりも“神の言葉”という気が強くする」
- ・「秋元先生のご指摘の全ては充分理解できる。私は60年以上のクリスチャンとしての信仰生活を送っていると、そういう表現が普通なんだと思うようになってきている。ただ本来の日本人として言葉の表現には、以前からおかしいと感じていた」
- ・「私は弁護士で、日本国憲法の前文の第2段落目『…諸国民の公正と信義に信頼して…』と使われており、何でここは“に”なんだろうと思っていた。裁判の実務では『～を信頼する』として、“を”で書くのが一般的である」
- ・「教会学校において、『報い』の聖書箇所が悩むことがあ

る。現在では悪い行為をした場合に使うことが多いので、信仰者の私たちが、聖書の言葉のポジティブな内容を、子どもたちにどのようにわかりやすく伝えていくか難しい」

・「卓話者の秋元先生同様、私も日本語教師をし、6年間海外で教えてきた。同時に、日本語聖書の翻訳にも興味があり、日本語聖書の語彙が多数中国語から取り入れられていることや英国欽定訳聖書、文語訳聖書などの研究もしてきた。先生のお話で述べられたことは、これまでそんなに気に留めていなかったが、新たな関心と呼び起こされた」

・「秋元先生のお話は大変興味深く拝聴した。早速聖書を購入しようと思う」……。

「2021年度横浜YMCA会員総会報告」

古田 和彦

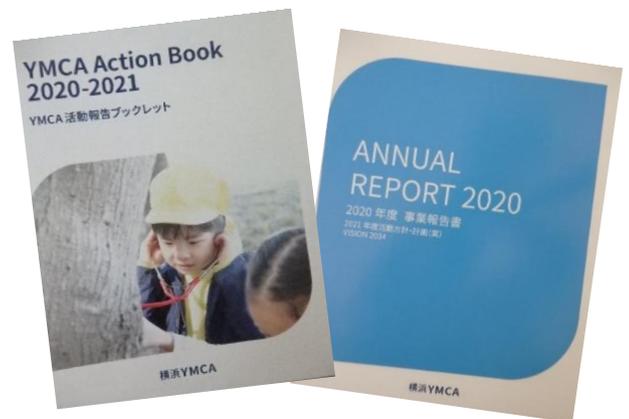
5月29日（土）午後2時から4時15分、オンラインで会員総会が行われた。新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、一堂に会して開くことがかなわなかった。そこで、オンラインで開催し、あらかじめ配布された資料により議案の説明となった。

質問があれば6月3日までに言い、そのうえで書面により意思表示する。その回答者が定足数上の出席者、賛否の意思表示者となる。したがって、5月29日は厳密にいうと議案の説明の時であった。

定刻、総合司会の総会準備委員田中廣喜さんから開始宣言。続いて、同じく総会準備委員の松橋秀之さん司式により開会礼拝。聖書は2021年度横浜YMCA基本聖句である「愛をもって心から尊敬しなさい。互いに平和に過ごしなさい。」（テサロニケの信徒への手紙15章13節）が読まれた。

総会準備委員長、岡進さん（横浜とつかワイズ）から挨拶のあと、議事の審議となり、議長は常議員会議長の鈴木茂さん（横浜つづきワイズ）。冒頭、総会の成立、賛否の取り方について上記の説明があった。

議長の指名により、佐竹博総主事が、第1号議案「2020年度事業及び会計報告の承認」、第2号議案「2021年度全体事業方針・計画案及び予算案の承認」を提案・説明した。



コロナ禍の下、事業の休止や留学生が来日できないなど、大変苦しい事業運営を余儀なくされていること、その中でも、会員諸氏からの維持会費の増額等の支援と励ましに感謝の言葉があった。第3号議案は「横浜キリスト教青年会会則変更の件」、内容は、常議員会、総会をオンラインで開催できるように変更することである。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

第4号議案「常議員の選出」が上程され、新任4名、改選(2期目)・留任6名が提案された。新任のうちの一人は鎌倉クラブの千葉裕子さんであった。

第5号議案「会員表彰」、52名のリーダーが奉仕賞を受けた。今回はそれぞれのYMCAで館長などからリーダーに表彰状が渡され、その様子がオンラインで流された。



また、「奉仕の書」には昨年11月に天に召された金子功さん(当クラブ会員)が記された。改めて、金子ワイズのYMCAとワイズに対する熱い思いを受け止めることができた。工藤理事長の挨拶、閉会式、佐竹総主事の感謝の言葉で終了した。

「近況：変わるもの変わらないもの」(その2)

大高 治



何時しか狭い国土に住む1億3千万人は、たらふく食べて、世界一長生きになりました。一方肥満が社会問題化し「ヘルシー」は日本語になり、各種のビタミン剤やサプリメントも洪水のように出回り始めました。

市場のベテランは「三里四方を食え」とか「遠くを食え」という言伝えを勧めました。人間のDNAの根幹が三里四方の食べ物で出来上がり、動物誕生の頃の食べ物も藻やキノコであったからだと言うのです。

米余りが続く中で、農業は衰退の時代に入ってしまいました。日本の農産物のみで栄養を満たすことは、最早不可能です。だが貿易の自由化、国際化に伴い世界中の食べ物や料理が私たちの目の前に積みまれています。こんな物が欲しい、あんなものが欲しいという願望と日本人の勤勉さによってたらされた豊かさは、生活様式を洋風化させた反面、生活習慣病というマイナスも伴って来たのです。

ここ50~70年の日本の変化は、過去千年の変化より大きいではなからうか。ある時「これからの50年、どんなに変化するか、それを見ることは出来ないが、見てみたいねー」と後期高齢のタクシー運転手さんと想いが一致したのでした。

一方、横浜クラブは2020年12月、90周年を迎えました。90年前と言えば、1930年、その前年アメリカに端を発した世界大恐慌の真直中です。だが、横浜では将来の海運を担う若き船員の訓練用の帆船、日本丸が就航し、米国に劣らない大型の貨客船、氷川丸がシアトル航路に就航しました。いずれも第二次世界大戦を生延び、博物館船として横浜港に係留されています。

横浜クラブも不況の中、18名で発足しました。将来への夢

と希望、開拓者精神無くして出来ることではなかったと思います。しかしながら、1939年には横浜クラブの活動は落ち込み、1940年には国際協会からも脱退しました。苦しく困難な時を乗り越え、戦争が終わるや、1948年には二度目の加盟認証を得て、22名で活動を再開しています。1952年には早くもカナダの国際大会に、1953年にはアメリカの大会に参加し、その後も日本区大会のホスト、アジア大会のコ・ホスト、熱海クラブ等のスポンサー役を果たし、シンガポールのクラブを始めとするIBC締結、大阪長野クラブとDBC締結など、先人、先達は奉仕活動と共に内外での友好親善に努めました。現在に続く支援活動は、横浜YMCAのチャリティーランをはじめ、日本語スピーチコンテストと幼児サッカーは初回から続けています。

新型コロナの感染拡大により、90周年記念行事を始め幾多の行事が延期や取り消しになり、例会は2020年5月からZoomとその併用になりましたが、会を続けようという強い意志が最新のハードとソフトの活用を見出して、歴史的な年になりました。コロナ禍による不便の中でも90年前からのクラブ創立の趣旨を引き継ぎ、新たな補充の手段を得て、互いに例会に招き招かれ他のクラブとの交流を増し、人的交流の輪は和に繋がっているように感じられる昨今です。

(大高さんの近況の前半部分は5月号に掲載されています)

「近況報告」

押川 幸男



横浜ワイズの皆さま。お久しぶりです。昨年、シニアの仲間入りをして、これからゆっくりしようと考えていたところ、神さまから、もう少し汗をかきなさいとの事なのでしょう。今年4月より群馬県前橋市にあります共愛学園こども園園長(本務)としての働きを始めました。



共愛学園こども園

引き続き沼田市にあります認定こども園恵泉幼稚園園長(兼務)と沼田教会の働きも続けています。いわゆる二拠点生活をしています。

認定こども園恵泉幼稚園は、利用定員3歳以上25名で6月1日現在25名の園児が在籍しています。教職員15名。一方の共愛学園こども園は利用定員0歳以上260名で現在247名の園児が在籍しています。教職員58名。小規模こども園と大規模こども園の二つを兼ねていると、様々なことが興味深く見えてきます。このことは、後日お話ししたいと思います。



学校法人共愛学園は、今年度から共愛学園前橋国際大学短期大学部も加わりまさに就学前教育・保育の共愛学園こども園、共愛学園小学校、共愛学園学童クラブ、共愛学園中学・高等学校、共愛学園前橋国際大学短期大学部そして共愛学園前橋国際大学までの総合学園としての体制が整いました。これからが、群馬県唯一の総合学園としての本格的な歩みが始まります。このような大切な時期に、共愛学園の歩みに参与することができることを嬉しく思っています。

ところで、こども園の新園舎の隣には、アメリカンボードの宣教師館があります。先日、そこを見学する機会がありました。女性宣教師たちが自らの青春時代をこの共愛学園創立のために捧げ、奉仕されたことを伺いました。

実は私の施設長（園長）としての始まりは、九州の宮崎市というところにある共愛幼稚園でした。その幼稚園もアメリカンボード宣教師によって始まった幼稚園です。そしておそらく最後の働きとなるのが、同じアメリカンボード女性宣教師によって始まったこの共愛学園こども園です。不思議な導きであり、神さまの粋な計らいを感じています。

最後に、新型コロナウイルス感染が収束し、また再び直接、横浜クラブ例会に参加し、皆さまにお会いできますことを楽しみにしています。

「自己紹介」

青木 英幸



横浜 YMCA には 1991 年に入職し横浜中央 YMCA 健康教育部に配属され 5 年間、主に子どもたちへの水泳・体操プログラムを中心に携わってきました。

そこで YMCA が初心者指導で大切にしている、①支持点のあるところから段階的に指導する、②興味の利用、③反復練習、④目標の明確化、⑤信頼関係の中での指導、という、私が今でも専門学校生へ学生支援を行う時に心掛けている 5 つのポイントを学びました。

その後、湘南とつか YMCA にある YMCA スポーツ・海洋科学専門学校（現・横浜 YMCA スポーツ専門学校）、併設されていた YMCA 国際ホテル・トラベル専門学校（現在廃校）も兼務、川崎 YMCA にある YMCA 福祉専門学校（現・YMCA 国際ビジネス専門学校）、厚木 YMCA にある YMCA 健康福祉専門学校と 25 年間専門学校事業に携わってきて、4 月より横浜中央 YMCA にある横浜 YMCA 学院専門学校の担当となりました。

横浜 YMCA 専門学校カレッジグループ 4 校全てを担当していく中で、学生への対応は、「指導」（上から伝える）から

「支援」（下から支える）へ変えなくてはならないと気付き、学生支援、学習支援、就職支援と様々な場面で表現と行動を変えてきました。

学生たちは専門学校生活の中で YMCA に連なる多くの方々と出会い、様々な実体験を通し学んでいきます。他者との違いに気付きそれを受け入れ、相手に寄り添うことの出来る専門職を養成していくために、皆様のお力をお借りしながらこれからも学生を支援して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「次期クラブ会長・部役員研修会報告」

古賀 健一郎

例年は、次年度クラブ会長並びに部役員の一泊研修会となり、また親睦を深める大切な機会となるはずでした。今年は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、初めての試みとして、『次期クラブ会長・部役員研修会』は、“Zoom 機能を利用したオンライン例会”として開催された。

（2021 年 3 月 6 日（土）13 時半～17 時 Zoom オンライン会議 — 横浜クラブ古賀出席）

（1）研修Ⅰ

東日本区の現状を現理事の板村哲也氏が説明された。その後、次期理事の大久保知宏氏により、2021-2022 年度の『理事主題』が示された。

（主題）『私たちは次の世代のために何ができるのか？』（スローガン）は『絆を深める時』

『2021-2022 年度はワイズメンズクラブが生まれて 100 年の節目の年であり、次の 100 年の始まる年となる。次の世代を育て、何かを伝えていくかを考える年とすべきと思う。コロナウイルスなどの影響を受ける年になることが予想されるが、それに対応した制度をつくっていく年度にしなければならない。次の 100 年のためにできることの一つが、スローガンとした絆を深める時であると考えた。コロナウイルスは個人の身体的な脅威であると同時に、組織の弱体化を引き起こしている。組織の弱体化を止めるためには会員の絆を深めることが最重要と考えスローガンとした……。』

（2）研修Ⅱ

①地域奉仕・YMCA サービス事業方針（次期地域奉仕・YMCA 事業主任 深尾香子氏）

（事業主題）『振り返り、自信をみつけ、踏み出そう』

（副題）『100 年後の誇りに向けて』

②会員増強事業方針

（次期会員増強事業主任 大川貴久氏）

（事業主題）『ワイズの未来を照らす若返り実行計画』

③国際・交流事業方針

（次期国際・交流事業主任 山田公平氏）

（事業主題）『ワイズの運動と YMCA の活動をどう結びつけるか？』を問い続けて』

④ユース事業方針

（次期ユース事業主任 三田備平氏）

（事業主題）『ユースとワイズの繋がりを強固なものに』

（3）研修Ⅲ

・『実務研修』では、会計の職務、事務手続きの説明、ワイズ基金のアピールがあった。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

(4) 研修Ⅳ

・各部に分かれての部長を囲んでの意見交換の場として、ブレイクアウトセッションを行った。部長の方針を聞きながら、コロナを乗り越えるためより良い部、クラブ活動の充実の為に意見交換した。その後、全体交流として、それぞれの部から『部長を囲んで』で話された内容の報告があった。

(5) 締めめの監事講評 (辻監事、漆畑監事)

「コロナ禍にあつての初めての試みの“Zoom機能を利用したオンライン例会”でしたが、内容・運用面でも大変工夫された素晴らしい研修会となった。皆様の発言を拝聴しながら、ワイズの士気はいささかも衰えていないと実感した。関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表したい。」

・閉会の挨拶 (大久保次期理事) と閉会点鐘 (板村理事) で午後5時に閉会した。



今回の研修会において、次期理事の大久保知宏氏の『理事主題』のご説明に加え、それぞれの役員の方々のお考えを伺いながら、(昨年クラブ創立90周年を終えた)『横浜クラブのこれからのあるべき姿』を描く上で、一つ大きな指針となった。

(この記事は古賀ワイズより2カ月前に寄稿されていましたが、紙面の都合上掲載をのびのびにしていたものです)

第二例会報告

伊藤 誠彦

日時: 5月27日(木) 17:00~18:30 (Zoom 例会)

出席者: 青木、伊藤、大高、古賀、古田

協議・確認・検討事項

1) 今後の行事予定の確認

クラブ例会予定及び東日本区大会、部評議会、Y-Y's 協議会の日程の確認をした。

2) 協議・報告事項

① 6月、7月、8月例会の予定

・「6月例会」6月10日(木) 18:30 (Zoom 参加)

★1年間の活動のまとめと評価、総会準備

・「7月例会」7月8日(木) 18:30 (Zoom 参加?)

★クラブ総会

・「8月例会」8月12日(木) 18:30 (Zoom 参加?)

★卓話 青木英幸ワイズ

「留学生による日本語スピーチコンテスト」(仮題)

② 横浜クラブ総会準備

・総会資料は分担作成の上、6月例会で検討することになっているが、次年度のクラブ運営方針案が古賀会長より示され意見が求められた。

大筋合意されたが、表現の簡潔化を求める意見が出た。

③ 沖縄及び沖縄那覇クラブについて

・沖縄クラブの解散、西日本区での新たな沖縄部設立の動きに伴い、やはり解散が取りざたされる沖縄那覇クラブの去就について、古田湘南・沖縄部長より、これまでの経緯と今後の見通しについて説明があった。



担当主事 青木 英幸

4月に開催された横浜中央 YMCA キックオフミーティングで話し合われたユース世代を対象にした具体的なプログラムとして、2021年6月19日(土) 14:00~15:30に、SC Johnson × 横浜 YMCA ユース対象プロジェクト 『Youth Conference hosted by Yokohama YMCA』 ~若者の社会参画について考える~ (主催:横浜 YMCA、協賛:SC Johnson) が Zoom を用いて開催されます。

「やりたいことがない」、「社会のためになるって何?」、「何かやってみたいけど、どこから始めればいいのかわからない」、そんなことを考えていたひとりの若者が横浜市寿町でのボランティア活動を通して変わった実体験について、大学生であるご本人をゲストスピーカーに迎え、「寿地区でのボランティア活動を通じた意識変革と行動変容」をテーマにユース世代(高校生、大学生、専門学校生、留学生など)を対象にお話いただきます。ユース社会において、若者にできることを共に考える機会としています。横浜 YMCA 学院専門学校の学生たちも参加する予定です。ご興味のある方はぜひご参加ください。

案内ホームページ

https://language.yokohamaymca.org/english/program_trial/ymcayouthforum2021/

6月例会プログラム

日時: 6月10日(木) 18:30~20:15

場所: Zoom 開催

司会: 大高 治

- 1.開会点鐘及び挨拶 古賀会長
- 2.ワイズソング・ワイズの信条 全員
- 3.今月の聖句 田口ワイズ
- 4.ゲスト・ビジター紹介 古賀会長
- 5.ビジネス・報告・7月総会準備 古賀会長
- 7.Happy Birthday 松島 美一
- 8.閉会点鐘 古賀会長

例会報告 古田 和彦

7月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会・総会	Zoom
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
26	土	15:00	第1回部評議会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080